

この夏、Lions Youth Exchange student として、マレーシア・シンガポールに行かせていただきました。

出発前は、「ホストファミリーの方と上手くコミュニケーションを取れるだろうか?」「食べ物は大丈夫だろうか?」など、多くの不安がありました。1ヶ月のホームステイも終わり、帰国の頃になると「まだ日本には帰りたくない」と思うってしまうほど充実した楽しい日々を過ごすことができました。

マレーシアでは、4つの家庭にお世話になりました。どの家庭にも年の近いホストブラザー、ホストシスターがいて、気さくに話しかけてきてくれたため、すぐにホストファミリーと打ち解けることができました。また、マレーシアで日常的に使われているマレー語・中国語も教えてもらい、英語だけでなく、マレー語・中国語も少し話すことができるようになりました。

シンガポールのホストシスターは、日本語がペラペラで驚きました。

ホストマザーが、以前日本に留学しており、教えてもらったと言っていました。日本への関心が強く、彼女の部屋には日本語で書かれたマンガ、小説が置いてありました。11月にYE生として来日すると言っていたので、機会があれば是非会いたいです。

シンガポールには、数多くの大規模なショッピングモールがあり、そのにぎわいぶりに圧倒されました。

どの家庭でも、その土地、その地方の伝統料理のレストラン、観光地、自然公園などに連れて行ってもらいました。

このように、数多くの楽しく貴重な経験をさせていただきましたが、一番心に残っていることは、地元の同年代の人たちとの交流です。5つの家庭それぞれで地域の学校に連れて行ってもらい、学校案内やオリエンテーションをしてもらいました。特に、一軒目のテノムという町では、レオクラブのメンバーがパーティを主催し、一緒にゲームをしたり、食事を楽しんだりして、親睦を深め、楽しい時間を過ごしました。

交流の中で他に印象深かったことは、学校の授業です。マレーシアには、中国系向けとマレーシア向けの2種類の公立高校があり、私は中国系の学校で授業を受ける機会がありました。地理と数学の授業を受けましたが、話していることは全てが中国語で全く分かりませんでした。しかし、日本で使われている漢字と全く同じ字が同じ意味で使われていることもあり、本や新聞などは、少し理解することができました。

シンガポールでは、平日、毎日午前中に学校へ行きました。私の行った学校では、数学、英語などの他に、中国語更には雑誌や新聞の記事の書き方、カメラの使い方など、ユニークな科目が多く、どれも楽しむことができました。

また、生徒会の活動にも少し参加させてもらいました。「先生の日」というイベントの直前だったため、みんな忙しそうで、遅い日は夜11時まで学校に残ることもあるということでした。

マレーシア・シンガポールの学生と触れ合って一番感じたことは、自分達で積極的に行動しているということです。どちらかといえば受け身の日本の学生と大きく違っていました。見習わないといけないと思いました。

日本に帰ってきてから時間が経ちましたが、今でも彼らと連絡を取り続けており、また会う機会を作っていきたいと思います。

最後になりますが、このような素晴らしく貴重な経験をする機会を与えてくださった鹿児島さつまライオンズクラブの皆様方、本当にありがとうございました。この貴重な経験を、これからの自分の人生に生かしていけるよう努力していきたいと思います。





